

<特別寄稿>

松下潤先生と、辻和毅先生を偲ぶ – 四国の流域めぐりの旅 –

大西 文秀*

リオの地球環境サミットが開催され、今年は30年。節目となる時代を迎えていますが、COVID-19の猛威も収まらず、予断を許さない状況にあります。ローマクラブのレポート「成長の限界」や、フラー博士の「宇宙船地球号」からは半世紀が過ぎ、この間幾度となく、世界中で地球環境問題の改善が叫ばれた時代がありましたが、遺憾ながら今日の加速化する、気候変動の脅威を実感するに至っています。そして、人類への最終警告として、この数年での、私たちの生き方の変換が求められています。

流域圏学会誌の第8巻第1号の巻頭言、「先端的課題に応える流域圏学会」で、那須清吾会長は、「それぞれの立場や価値観、視点を今こそ結集していくべき」と述べられています。流域圏学会をはじめ、すべての科学や学術分野は、次世代や地球のために、総力を結集させ、最後のお勤めを果たす覚悟が求められるのではないかと、古希を迎え、思う、この頃です。

このような中、松下潤先生と、辻和毅先生の訃報を受けました。松下先生は、流域圏学会へ改組された2011年から2016年度まで、会長を務められ、辻和毅先生も同じく2011年から2016年まで、理事を務められました。

2004年に名古屋大学で開催された、土木学会の第12回地球環境シンポジウムで、私は初めて松下先生にお会いし、その後、土木学会地球環境委員会や、流域圏学会への参加を勧めていただき、今に至っております。また、辻先生とは、流域圏学会がご縁でお会いすることができ、高著を出版されるたびに送ってくださり、勉強させていただきました。松下先生は、多方面でご活躍されましたが、流域圏学会では、次期会長に就任直前でおられた、高知工科大学の村上雅博先生が、体調を崩され、急遽、松下先生が、会長を務められたという事もありました。

おふたりの先生は、流域に強いご関心をお持ちで、2015年2月には、3人で、私の30年来の愛車VWバナゴンで、四国の、馬路村や魚梁瀬ダム、早明浦ダムや本山町の棚田（天空の郷）、満濃池、土器川など、巡りました。しかし先日、辻先生も、松下先生の後を追うように、旅立たれました。とてもお元気でおられた、おふたりの先生が、この重要な時期に旅立たれ、残念でなりません。写真1は、出発前に村上先生に見送られ、高知工科大学で撮影してもらったもので、左から、辻先生、村上先生、松下先生、大西です。

在りし日の、流域めぐりの旅を、懐かしく思い出し、皆さまと共に、追悼させていただきたいと想います。



写真1 高知工科大学を出発



写真2 村上雅博先生の最終講義

*ヒト自然系GISラボ、流域圏学会理事、土木学会地球環境委員会委員

この流域めぐりの旅は、村上先生の最終講義が、2015年2月6日に高知工科大学で行われるのに合わせ、松下先生が立案、辻先生がアドバイス、小生が奈良から愛車バナゴンで参加するという旅でした。写真2は、高知工科大学での村上先生の最終講義が終わり撮影した記念写真です。出発すると、誰かが言い出し、いつの間にか、黄門さん（辻先生）と、助さん（松下先生）と、格さん（小生）の、水戸黄門の旅になっていました。また翌年の、2016年7月には、藤村和正先生も参加され、4人で熊本地震の視察を行い、この報告は、藤村先生が、流域圏学会誌の第4巻第1号（October, 2016）に、「平成28年4月・熊本地震の現地報告」として詳しく寄稿されていますので、ぜひご覧ください。

2015年2月7日、朝10時過ぎに高知工科大学を出発し、先導くださった村上先生の車が、地元の野菜や果物の直売所に到着し、馬の餞（写真3）を買ってくださり、先生とお別れし、今日の宿泊地、馬路村を目指しました。国道55号線を室戸方面に東進し、安田川の河口の安田町を左折し街中を抜け、安田川を上り、美しい山村や溪流や森を眺め、源流の馬路村へ入りました。

宿は、安田川河畔の馬路温泉（写真4）です。立派な村役場（写真5）にちょっと寄り、1時前には到着し、昼食に美味しいソバをいただき、標高250mの村内の散歩に出かけました。村の事なら何でもわかるという、「まかいちよって家（や）」（写真6）や、「ゆずの森加工工場」（写真7）などを見学し、特産のゆずドリンク「ごっくん馬路村」（写真8）を美味しくいただきました。「ぼくたちは人口1,000人の村。かつて栄えた林業が衰退していく中、村ではゆずが植えられました。ゆず加工品をつくっています。街に届けたい。若者に村に帰ってきてもらいたい・・・」と、玄関に書かれていました（写真9）。夕方まで村中を散策し、宿へ戻り、豪華な美味しい夕食を、「村上先生も来れば良かったのに！」とお話しながら、いただきました（写真10）。



写真3 直売所での馬の餞



写真4 馬路温泉（コミュニティセンターうまじ）



写真5 馬路村役場



写真6 まかいちよって家（や）



写真7 ゆずの森加工工場



写真8 ごっくん馬路村

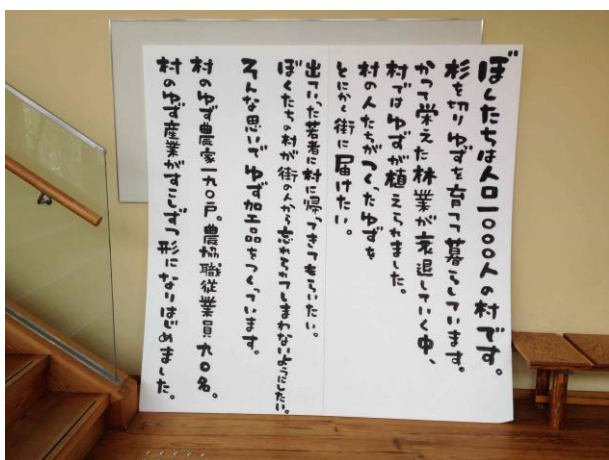


写真9 ぼくたちは人口1000人の村・・・



写真10 馬路温泉での夕食

2日目、朝7時半には、また豪華な美味しい朝食（写真11）。9時前には、今日の最初の目的地、魚梁瀬ダムを目指して、玄関で記念撮影をした後、馬路温泉を出発しました（写真12）。

安田川源流の馬路村からつづら折りの道をさらに上り、分水嶺をくぐる標高420mの新久木トンネルを抜けると、奈半利川の流域に入りました。ここは、高知県北川村。出発して1時間、ロックフィルダムの魚梁



写真11 馬路温泉での朝食



写真12 馬路温泉を出発

瀬ダムが見えてきました。ダムの展望台で記念撮影（写真 13）。魚梁瀬大橋を渡り、魚梁瀬森林鉄道森の駅やなせ（写真 14）や、標高 450m の集落を回りました。ここは再び馬路村です。ダムの堤体は北川村にあり、魚梁瀬貯水池の大部分は馬路村にあるのです。訪れたのは 2 月。水位はかなり下がり、昔の集落跡が見られ、秘境と想える、急峻な谷や森に囲まれた当時の山村の佇まいを感じました（写真 15）。

11 時にダムの展望台に戻り、奈半利川に沿って、40 キロ先の河口近くにある奈半利駅を目指しました。河口から 3 キロ上流までは北川村を走ります。奈半利川上流は、巨岩が河原を荒々しく覆い、この時期は降水が少なく、水量は特に少ないのか、ダムに水を取られたのか、かわいそうな姿でした（写真 16）。途中の、二股橋（めがね橋、旧魚梁瀬森林鉄道施設、標高 240m、写真 17）を散策し、1 時前に奈半利駅（写真 18）に到着。昼食のお店を探しました。奈半利は、1968 年の高校 2 年の夏に親友とふたり、大阪からサイクリングで四国を回った時に、海岸にテントを張って夜を過ごした、懐かしい思い出の地でした。



写真 13 魚梁瀬ダム（ロックフィルダム）にて



写真 14 魚梁瀬森林鉄道 森の駅やなせ



写真 15 冬の魚梁瀬ダム 集落跡



写真 16 冬の奈半利川 上流

駅ビルで、シラスと海苔が乗ったパスタをいただいた後、河口の奈半利橋（写真 19）を渡り、今夜の宿、早明浦ダムの湖畔にある、さめうら荘を目指しました。再び高知に戻り、南国から大豊までは、国道 32 号線を走って、標高 395m の根曳峠を越えたのか、高知自動車道を使ったのか、頑張っても思い出せません。黄門さんと助さんの両先生がお元気なら聴けるのですが、今はそれでもできず残念です。写真の履歴からは、奈半利から 2 時間弱で、高知県本山町に到着しています。まず、帰全山公園に向かい、野中兼山の兼山廟に参りました（写真 20）。その後 4 時半には、夕暮れの早明浦ダム（写真 21）を散歩見学し、5 時過ぎには、今日の宿、さめうら荘に無事到着しました。夕食はそれぞれお好みの料理を選びいただきました。



写真 17 二股橋（めがね橋、旧魚梁瀬森林鉄道施設）



写真 20 帰全山公園 野中兼山の兼山廟



写真 18 奈半利駅



写真 19 奈半利川 河口 奈半利橋から



写真 21 夕暮れの早明浦ダム

3 日目、朝起きると、吉野川流域。標高 350m の湖畔は薄っすらと雪景色でした（写真 22）。愛車バナゴンにも雪（写真 23）。写真は建替前のさめうら荘ですが、2018 年の暮に立派に新装オープンしていますので、また泊まりたいと想っています。今日は最終日です。早明浦ダムを見学し、本山町の吉延の棚田（天空の郷）、満濃池を目指します。朝 9 時にさめうら荘を出発。松下先生と、辻先生から、「四国のいのち」早明浦ダムの解説を拝聴し、朝の陽ざしが眩しいなか、3 人で何度もナイスショットにトライしました。ベストショットは、ダムの中央、本山町と土佐町の境界での写真です（写真 24）。懐かしく、涙が出そうになります。

本山町の町に戻り、吉延の棚田、天空の郷へ向いました。10時過ぎには到着し、1時間ほど散歩しました。雪が薄っすらと積もった、静かで幻想的な、天空の郷に、皆言葉を失いました。標高 460mの寒い中、何度もスリーショットに挑み（写真 25）、道の駅土佐さめうら（写真 26）へ寄り、本山町を後にしました。



写真 22 薄っすら雪化粧の早明浦ダム



写真 23 建替前のさめうら荘と雪化粧のパナゴン

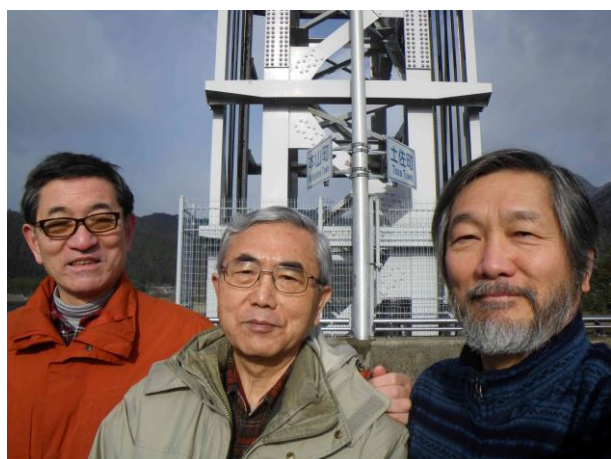


写真 24 朝日が眩しい早明浦ダムにて



写真 25 吉延の棚田、天空の郷にて

大豊から高速に入り、黄門さん、辻先生のお薦めの、讃岐うどんのお店を目指しました。かなりお腹が空いた 2 時前に到着。しょうゆうどんのお店でした。大きな大根を自分でおろして、好きなだけ薬味とうどんに乗せ、特製の醤油をかけて食べました。写真 27 は大根をおろしておられる、辻先生と松下先生です。醤油をかけると、写真 28 のようになり、とても美味しくいただきました。

お店から 10 分ほどで満濃池に到着。初めて訪れた、満濃池と両先生の詳しい解説に感激。小雪の舞う標高 140mで、最後のスリーショットに挑みました（写真 29）。予定の流域めぐりは、名残惜しくも無事に終わりました。

東京へ帰る松下先生を、高松空港へお送りする途中、念願だった、109 の 1 級水系のひとつ、冬の土器川に会うことができ、感無量でした（写真 30）。



写真 26 道の駅 土佐さめうらにて

東京へ帰られる松下先生と、4時半に高松空港でお別れし、福岡へ帰られる辻先生と、5時半に JR 高松駅の高速バスターミナルでお別れました。黄門さん、助さん、格さんの3人旅は、おひとりずつお別れし、格さんとバナゴンは、寂しく、夜の高速道路を、鳴門海峡大橋から淡路島へ走り、8時半には明石海峡大橋を渡り（写真31）、10時過ぎに奈良の生駒へ帰りました。



写真 27 大根をおろす先生



写真 28 しょうゆうどんの完成



写真 29 小雪舞う満濃池にて



写真 30 冬の土器川

天の川で、おふたりの先生は、

「格さんが来たら、銀河系めぐりしようね、
流域圏学会、みんなで頑張ってください！」と、
お話しておられるかも知れません。

ご指導に感謝申し上げますと共に、
ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

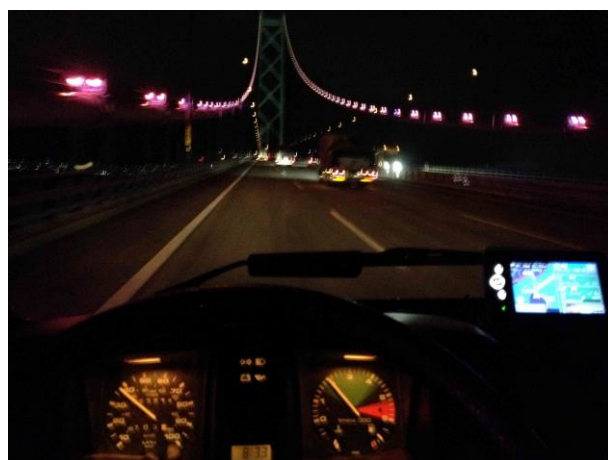


写真 31 夜の明石海峡大橋を渡るバナゴン